

酪農乳業界の重要課題 7 項目を設定

「戦略ビジョン」を改訂、来年度から目標検討へ

Jミルクは、酪農乳業界の中長期的な方向性を示すものとして2019年に策定した「提言(わが国酪農乳業の展望ある未来に向けた戦略ビジョン)」(以下「戦略ビジョン」といいます)の改訂版をまとめました。改訂に際して、新たな視点として、酪農乳業界として今後取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を7項目、盛り込みました。(詳細は下記)

戦略ビジョンは、日本の酪農乳業の将来世代に展望ある持続可能な産業の未来を受け渡すために、今後、酪農乳業関係者が目指すべき姿などを明らかにすることを目的に策定しました。

改訂は、策定直後に発生した新型コロナウイルス禍、ロシアのウクライナ侵攻、急激な円安など過去に例のない規模での社会経済情勢の変化、またこれらの影響による生乳需給の構造変化や生乳生産基盤のさらなる弱体化といった事態に対応するため、有識者などの意見も聴きながら検討を進めてきました。(2019年版の戦略ビジョンは <https://www.j-milk.jp/news/teigen2020.html> でご覧になれます。)

マテリアリティは、持続可能な酪農乳業の実現に向けて、業界外の専門家などの意見も聴き、さまざまな課題の中から「日本の酪農乳業の根幹的課題への対応」「社会的要求への対応」「見(魅)せる化」の観点でくられる7項目を設定しました。

記

1. マテリアリティについて

次の7項目になります。

日本の酪農乳業のマテリアリティ

1. 日本の酪農乳業の根幹的課題への対応
 - (1)日本酪農の生産基盤の維持・強化
 - (2)安全で安心される良質な牛乳・乳製品の安定的な提供
 - (3)牛乳・乳製品の消費拡大
2. 社会的要求への対応
 - (1)温室効果ガス排出量の削減
 - (2)労働者の安全と権利の確保
 - (3)アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理
3. 見(魅)せる化
 - (1)日本の酪農乳業の意義と持続可能な取り組みの見える化

2. 改訂版・戦略ビジョンについて

成長性、強靱性、社会性という三つの戦略視点を踏まえた持続可能な酪農乳業のイメージを、「成長し、強固で、社会の要求に応えられる産業」としました(2019年版の「力強く成長し信頼される持続可能な産業」を改訂しました)。

※改訂版の戦略ビジョンは、下記のページでご覧になれます。

<https://www.j-milk.jp/news/strategicvision202410.html>

3. 今後の進め方について

今後、まずはJミルク会員などへの通知、業界関係者向け説明会などで周知を図り、目標設定や取り組みの具体化に向けた準備も行った上で、2025年度以降、

- ・ 各項目に関連する定量・定性データの整理・分析や各種調査など
- ・ 項目ごとに「最終目標年度及びその目標」「中間目標年度及びその目標」の設定(定量的な目標に限定しないで、できるものから順に)
- ・ 目標達成に向けたガイドラインの作成や各種対応の検討・実施など

といった流れで推進を図っていく予定です。

具体的には、例えば「日本酪農の生産基盤の維持・強化」関連では、定量・定性データ(例:生乳生産量、酪農家戸数、乳代、コスト、飼料を含めた自給率、補助事業、暑熱など気候変動への影響・適応状況など)の整理・分析や酪農家の調査などを検討していきます。また、「温室効果ガス排出量の削減」関連では、農林水産省がJミルクや指定団体などと連携し作成している「温室効果ガス簡易算定シート」の完成後、酪農家段階の実態調査を行い、排出量の実態を把握することなどを検討していきます。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

広報担当 寺田

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 御茶ノ水安田ビル 5階

電話:03-5577-7494